

調査速報

タイ自動車市場月次統計（2018年2月）

新車需要の拡大が続く。18年内需見通しが90~95万台レンジへと目線が上向いていく状況。

主任研究員
深尾 三四郎
045-225-2375
fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2月生産台数（季調値）は前月比3.7%増の204万台。内需拡大が増産の主因。
- 輸出台数（季調値）は同0.5%増の117万台と横ばい推移。17年実績を上回っており、今のところ堅調。
- 国内販売（季調値）は同6.9%増の97万台。年率90万台超えが続いている。

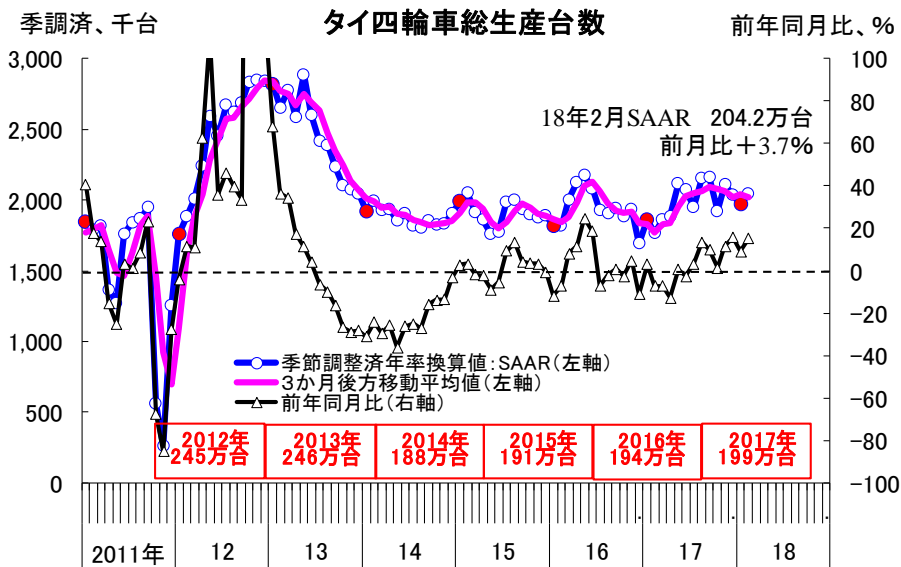
18年2月の国内生産台数（季調値）は200万台割れした1月から挽回。

タイ工業連盟（Federation of Thai Industries：以下、FTI）が発表した2018年2月の四輪車総生産台数は、前年同月比15.4%増と8か月連続で前年超えし、季節調整済年率換算値（当社試算、以下SAAR）も前月比3.7%増の204.2万台と増加した。1月は年率200万台割れとスロースタートであったが、2月は挽回した（図表1）。輸出は依然停滞気味だが、国内販売が堅調で増産となった。

2月の総輸出台数は前年同月比4.1%増と4か月連続で前年超えしたが、SAARは前月比0.5%増の117.0万台とほぼ横ばいとなった（図表2）。ベトナムが港湾における輸入車両への検査手続きを煩雑化させる非関税障壁を築いたことが、年始からの輸出停滞の一要因となったと考える。もっとも、足元のSAAR水準は17暦年実績114万台を若干上回っている。引き続き輸出需要の動向には要注意ではあるが、現時点では堅調な印象だ。

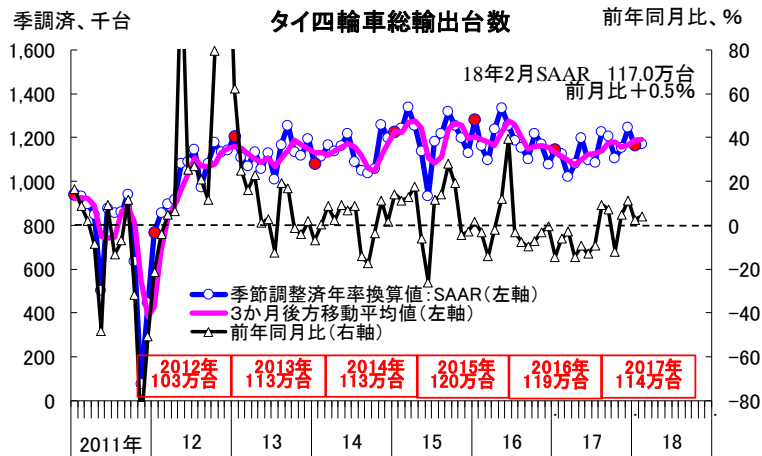
2月の国内販売台数は前年同月比10.3%増と14か月連続の前年超えとなり、SAARは前月比6.9%増の97.4万台と増加した（図表3）。今年に入り、1月、2月と共に年率90万台を超える水準である。また、3か月後方移動平均値で見ると増加基調が続いており、内需拡大が鮮明となっている。相次ぐ新モデルの市場投入と販促強化が続いている上、良好な消費環境が続いていることから、目先、内需が減速するという懸念は不要と考える（図表4）。弊社では、2018暦年のタイ国内新車販売台数見通しを89万台としているが、90~95万台レンジに目線を上げていく必要性を感じ始めている。

図表1 2月自動車生産（SAAR）は増加



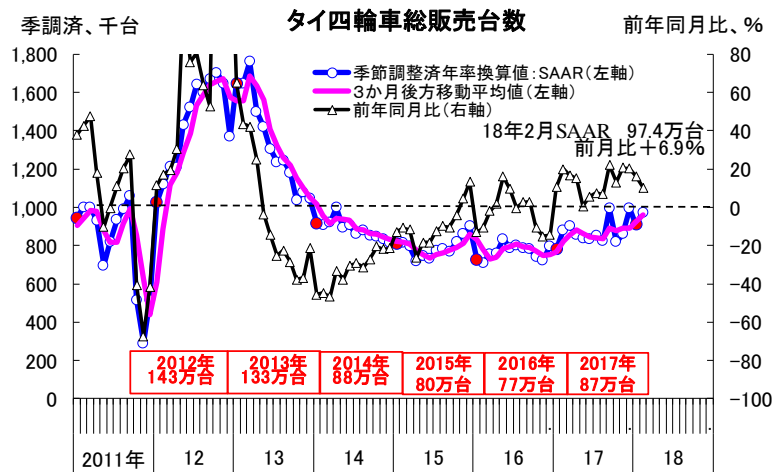
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所：Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数 (SAAR) は微増



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

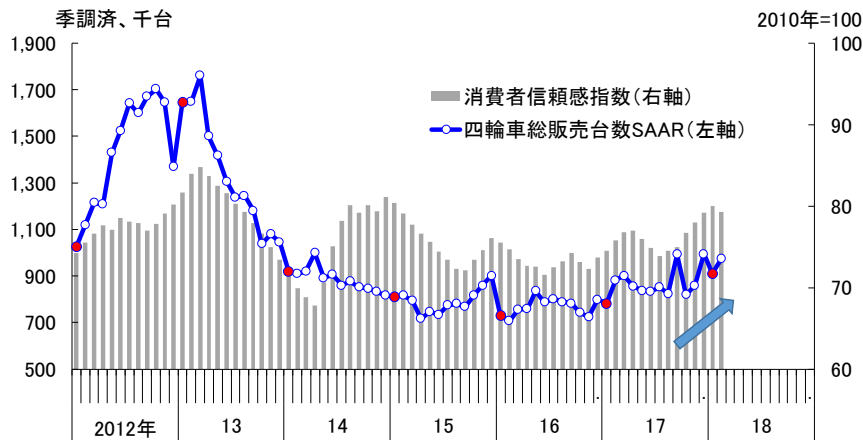
図表3 国内販売 (SAAR) が伸長



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表4 消費マインドは良好

タイ四輪車総販売台数 (SAAR) と消費者信頼感指数の推移



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industries、University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。